



父さんの行き先



katasan1019

父さんの行き先。

先日、信号待ちでぼーっとしていると、目も覚めるような衝撃を体に受けた。

じいさん寄りのおじさん（以下『とうさん』と称する）に突撃された。

そのとうさんはワタシとおなじく信号待ちをしている人に追突し止まった。

そしてズボンのポケットから財布を取り出し、取り出したものをぼろぼろと落としていた。

『このとうさんちょっとボケてるかも……』と暇つぶしに観察開始。

とうさんはトランプのカードのような数のカードから目指すものを見つけたらしくグーで握りしめ信号が青に変わるのを待った。

ドライアイの目を凝らして見ればどうやらそれは『診察券』であると判明した。

たぶんとうさんはこの先にあるどこかの病院へといくためにこの信号待ちでカードを準備し、速やかに受付を終わらせ治療を受けようと考えたらしい。

信号が青になるまで足踏みをしていた。

はたしてこのとうさんはどこの病院に行くのだろうか。

この先にある病院と言えば『眼科・内科・歯科・メンタルクリニック』が並ぶ。

さて、どこか、メガネをしているから『眼科』か、でも腹が痛くて『内科』ということもある。だが腹痛で足踏みできるだろうか、それに痛みに耐えて体を曲げたりはしていない。

信号が『青』に変わった！ワタシは『とうさんダッシュだ！』と心の中で号令をかける間もなくとうさんはダッシュした。

はたして、とうさんは『歯科』の『押してください』と書かれた自動ドアをバシッと叩き開け滑るように入った。

その歯科は歩道沿いに新しく開院したところで日曜も祝日も治療してもらえるとという画期的な（このあたりにしては）病院。

その結果1年足らずにもかかわらず爆発的に患者数が増えている。ということは近隣の歯科医院から患者が流れ出ているということにもなる。

ワタシはそっかぁ、とうさんは歯が痛かったのか、あまりの痛さに人にぶつかったのにも気付かず、足踏みをして痛みに耐え信号を待ったのだねえ。と、遠目になった。

そして心の中で叫んだ『センセイ！そのとうさんの歯を早く治してあげて～。すんごく急いでるから～、麻酔とかしてる時間ないから～、ぱっさりやっちゃって～♪』と。